

八幡市まち・ひと・しごと創生総合戦略 指標の達成状況と評価・総括

資料1

H31実績に対する評価…H31実績について、計画当初値、目標値等との比較による評価(未達の場合はその理由など)を記入してください。
 計画期間における総括…計画期間(H28～31年度)を通じての各指標に関する総括を記入してください。
 基本目標・KPIの達成状況については、次の表を参考にしてください。

「達成状況」(目標値の達成状況)	達成	◎	
	未達成	前年度より前進している場合	○
		前年度と同じ値もしくは後退している場合	△
	その他(数値なし)	—	

1 子どもが輝く未来の創生 「やわた子ども未来プロジェクト」

<基本目標の達成状況>

基本目標		計画当初値	H28実績	H29実績	H30実績	H31実績	目標値	達成状況	H31実績に対する評価	計画期間における総括
将来への夢や目標を持つ子どもの割合	小学生	88.6%(H27)	—	—	85.6% ※1	—	90%	△	—	目標を達成することができなかった。子どもたちが将来の夢や目標に向かって生き生きと成長するためには、自ら考え、行動し、新しい時代を主体的に切り拓く力を身に付けることが大切である。そのために、見通しを持たせつつ、子どもたち一人一人に「確かな学力」と「豊かな人間性」を育むような教育活動を推進していく必要がある。
	中学生	74.5%(H27)	—	—	70.9% ※1	—	80%	△		
子育てが楽しいと思う保護者の割合		70.4%(H27)	—	—	53.8%	—	75%	△	—	目標値とH30年度実績値とでは、対象範囲と設問が異なっているため、単純比較はできないものの、目標値より約20ポイント下回り、子育てに対する不安や負担を感じている保護者の割合が多いという結果となった。子どもを産み育てていく上で感じる不安や負担の軽減を図る取り組みを今後も切れ目なく進め、安心して子育てができる環境を整えていく必要がある。
子育て世代の転出入者		▲232人(H26)	▲224人	▲371人	▲146人	算出中	0人以上			転出超過の状況を解消することを目指して取り組んできたが、平成30年度時点では未だに転出超過の状況にある。特に、20～30歳代の転出超過の状況が未だに多い現状を踏まえ、第2期総合戦略では、市内への働く場の創出を含む「まちづくり」に関する取組を追加する。

※1 平成30年度実施学校満足度調査より

<各施策の具体的事業の進捗状況>

(1) 次代を生きる力の育成

(KPIの達成状況)

KPI		計画当初値	H28実績	H29実績	H30実績	H31実績	目標値	達成状況	H31実績に対する評価	計画期間における総括
全国学力・学習状況調査結果(小学校6年生正答率)	国語A	府平均以下差3%以内(H26)	府平均以下差3%以内	府平均以下差5%以内	府平均以下差3%以内	府平均以下差5%超 ※3	府平均以上	△	国語・算数ともに昨年度をさらに下回り、2教科とも目標値である府平均には達することができなかった。	目標を達成することができなかった。小学校新学習指導要領の実施を踏まえ、家庭や地域社会と協力しながら、体験的な学習や基礎的・基本的な知識及び技能を活用した問題解決的な学習を重視するとともに、児童の興味・関心を活かし、自主的・自発的な学習が促されるよう工夫していく。
	国語B	府平均以下差3%以内(H26)	府平均以下差5%以内	府平均以下差5%超	府平均以下差5%以内					
	算数A	府平均以下差1%以内(H26)	府平均以下差3%以内	府平均以下差5%以内	府平均以下差2%以内	府平均以下差5%以内 ※3		△		
	算数B	府平均以下差5%以内(H26)	府平均以下差3%以内	府平均以下差5%以内	府平均以下差2%以内					
京都府中学校学力診断テスト(2年生正答率)	国語	府平均以下差5%以内(H26)	府平均以下差1%以内	府平均以下差5%以内	府平均以下差5%超	府平均以下差5%以内	府平均以上	○	国語の平均値は昨年度より向上したが、3教科とも目標値である府平均以上には達することができなかった。	目標を達成することができなかった。学力の落ち込みに歯止めをかけ、目標値に近づけるために、まずは学力の根底となる基礎・基本の力が身に付けられるような取組を行う。さらに、家庭学習の重要性を再認識し、家庭学習習慣を定着させ、取組の充実を図り、学力向上につなげていく。
	数学	府平均以下差5%超(H26)	府平均以下差1%以内	府平均以下差5%以内	府平均以下差5%超	府平均以下差5%超		△		
	英語	府平均以下差5%超(H26)	府平均以下差3%以内	府平均以下差5%超	府平均以下差5%超	府平均以下差5%超		△		
中学卒業時の英検3級以上の所持率		23.6%(H26)	27.7%	38.1%	38.0% ※2	27.5% ※2	30%	△	目標値を下回る結果となった。検定の出題傾向を分析するとともに、生徒の伸ばせる部分を見つけ、繰り返し学習を行う必要がある。検定料を公費負担することで、多くの生徒が受検でき、意欲と学力の向上に繋がっている。	目標を達成することができなかった。すべての生徒に対し、公費負担による受検を実施し、英語に対する意識・関心を向上させ、学習の動機づけの一つとなるよう取組を進める。
自分の良いところを知っていて、自分のことが好きと思う子どもの割合	小学生	54.0%(H27)	—	—	65.3% ※1	—	60%	◎	—	H30の実績から概ね目標は達成できた。自分の良いところを知り自分のことが好きだと思えるよう、自己肯定感や自尊心をさらに育むような取組を推進し、さらに他者の個性を認め、自他ともに大切にする児童生徒の育成を目指す。
	中学生	45.5%(H27)	—	—	49.7% ※1	—	50%	○		

※1 平成30年度実施学校満足度調査より

※2 英語検定公費負担受験者の合格者をもとに算出

※3 H31よりA・Bの区分が廃止され、一体的な調査となった。

(2) 好奇心・探究心と夢を掴む力の育成

(KPIの達成状況)

KPI		計画当初値	H28実績	H29実績	H30実績	H31実績	目標値	達成状況	H31実績に対する評価	計画期間における総括
放課後子ども総合プラン実施箇所数	一体型	—	0か所	0か所	0か所	0か所	4か所	△	<p>やわた放課後学習クラブの学習には放課後児童健全育成施設在籍児童の5,6年生、特別プログラムには4～6年生が参加した。しかし、放課後学習クラブ事業は児童を受け入れるための教室や人員、児童の安全性の確保等に課題があることから、全学年を対象とした実施には至っていない。</p>	<p>「放課後子ども総合プラン」の推進にあたっては、やわた放課後学習クラブに放課後児童健全育成施設在籍児童が参加し、平成29年度からは、一体型該当施設に在籍する児童に対し、特別プログラムへの参加募集を行った。しかし、放課後学習クラブ事業は児童を受け入れるための教室や人員、児童の安全性の確保等に課題があることから、全学年を対象とした実施には至っていない。</p>
	連携型	—	0か所	0か所	0か所	0か所	4か所	△		
子どもわくわく教室開催数		7教室(H26)	7教室	7教室	7教室	7教室	8教室	△	<p>スポーツ教室ではバドミントン教室の廃止が決まり、新たにバトントワリング教室が加わった。新型コロナウイルス感染症の影響もあり、後半は中止の教室が相次ぎ、開催数、参加者数は前年度に比べ減少した。</p>	<p>指導者の高齢化や人手不足により、教室の廃止が多数あったが、新たな種目、指導者の協力により教室数は維持できた。しかし、目標値である8教室には届かなかったため、児童のニーズや人気等を汲み取り、教室の拡充を図り続けたい。</p>
毎日楽しく過ごしている子どもの割合	小学生	86.8%(H27)	—	—	87.3% ※1	—	90%	○	—	<p>目標を達成することができなかった。学習、友人関係、部活動など子どもたちが何か一つでもしっかり取り組めるように支援及び助言しながら、教育活動を推進していきたい。</p>
	中学生	86.2%(H27)	—	—	84.4% ※1	—	90%	△		

※1 平成30年度実施学校満足度調査より

(3) 出産から子育てまで一貫したサポートの充実

(KPIの達成状況)

KPI	計画当初値	H28実績	H29実績	H30実績	H31実績	目標値	達成状況	H31実績に対する評価	計画期間における総括
保育園待機児童者数	0人(H26)	0人	0人	0人	0人	0人を維持	◎	目標値を達成。	計画期間を通じ、公立園・民間園ともに綿密な連携を図り、入所調整を行った結果、全期間において目標値を達成した。
認定こども園実施箇所数	1か所(H26)	3か所	3か所	5か所	5か所	5か所	◎	前年度(H30)に目標値達成済。	民間保育園2園(旧山鳩・山鳩第二保育園)の幼保連携型認定こども園化に向け連携調整を図り、目標値を達成した。
マイこども園制度登録者数	-	1,984人	3,442人	3,276人	3,157人	2,000人	◎	当該目標値を大きく上回る結果となり、一定の普及が図られた。	「子どもの育ち情報システム」及び「園児情報システム」を引き続き実施し、保護者に発達に関する情報を提供するとともに、保育士等の事務効率化を進める。

2 健幸都市の創生「やわたスマートウェルネスシティプロジェクト」

<基本目標の達成状況>

基本目標		計画当初値	H28実績	H29実績	H30実績	H31実績	目標値	達成状況	H31実績に対する評価	計画期間における総括
健幸クラウドシステム	からだの状況とライフスタイル	(未設定)	—	1.5	1.5	算出中	5段階中1ポイント上昇			短期間で結果を出すのが難しい項目であった。取り組みを今後も継続していくことで、目標数値の達成につなげていくことができればと考える。
	ソーシャルアクティビティ	(未設定)	—	1.5	1.5	算出中	5段階中1ポイント上昇			ヘルスリテラシー向上のための取組やコミュニティ活動の活性化などの取組を進めてきたが、社会的な活動を活性化させるためには、市民を活動へと誘導する仕掛けが必要であると考え。
	スマートウェルネスシティインフラ	(未設定)	—	1.5	2.0	算出中	5段階中1ポイント上昇			都市環境の整備は、時間や予算を要することから困難であるが、SWCを推進する体制の構築において、数値を伸ばすことができた。

<各施策の具体的事業の進捗状況>

(1) スマートウェルネスシティやわたのプロモーション

(KPIの達成状況)

KPI	計画当初値	H28実績	H29実績	H30実績	H31実績	目標値	達成状況	H31実績に対する評価	計画期間における総括
健幸づくり計画(仮称)の策定	—	構想策定	計画策定	計画推進	計画推進	策定	◎	計画に記載する内容を一定推進することができた。	本市がSWCを推進していくための構想・計画を策定することができた。今後も計画に記載している内容を推進することで、本市が目指す健康なまちづくりを行う。
健康フェスタ参加者数	約2,500人	2,400人	700人	2,200人	2,200人	3,000人	△	例年どおりの賑わいを見せたが、目標値には及ばなかった。	健康フェスタは本来アプローチしたい中高年齢層にうまくアプローチできなかった。令和2年度以降は、ターゲットや課題を絞ったイベントへと変更する。

(2) 市民協働で行う高齢者の健康づくり

(KPIの達成状況)

KPI		計画当初値	H28実績	H29実績	H30実績	H31実績	目標値	達成状況	H31実績に対する評価	計画期間における総括
産官学と地域連携によるコミュニティ運動教室	実施箇所数	—	4か所	4か所	5か所	5か所	20か所	△	教室の実施年数が長くなり、定着してきたように感じる。 実施箇所は、実施体制(教室運営者の人数やスキル)や会場の問題で増やすことができなかった。	年々認知度が上がり、少しずつではあるが教室が定着してきた。 今後の課題として教室数を増やしていくことがあるが、教室運営者の中でのそのような声が上がるように、サポートの充実などが必要である。
	参加者数	—	64人	84人	106人	105人	500人	△		
平均寿命と健康寿命の差	男性	1.7歳(H26)	1.8歳(H28)	1.95歳	1.80	算出中	現状値より縮小			早期からの取組が必要であり、取組の効果の発現にはもう少し時間がかかると思われる。
	女性	3.9歳(H26)	4.3歳(H28)	4.18歳	4.09	算出中	現状値より縮小			

(3) 誰もが気軽に参加できる健幸プログラムづくり

(KPIの達成状況)

KPI		計画当初値	H28実績	H29実績	H30実績	H31実績	目標値	達成状況	H31実績に対する評価	計画期間における総括
健康マイレージ利用者数 (⇒やわた未来いきいき健幸プロジェクト(H31～))		217人(H26)	548人	535人	561人	1,050人	1,000人	◎	H31年度からICTを活用した事業にリニューアルし、募集開始当初は集客に苦戦したが、何とか目標値を達成できた。	長年にわたり、実績が伸び悩んできたが、事業のリニューアルに伴って、目標値を達成することができた。今後、新規参加者を集めるのに苦心することが予想されるが、情報発信の方法を工夫し、多くの人たちが参加する事業としていきたい。
産官学連携健幸プログラム開発数		—	3	4	5	5	4	◎	新たな「プログラム」や「仕組み」は開発できなかったが、民間事業者との連携できっかけづくりイベントを多数実施するなど、下地づくりは順調に進んでいる。	産官学の連携事業については、SWC首長研究会で情報提供のある先駆的な事業等を参考に、関係各位と調整しながら進めることができた。今後も、積極的に民間事業者等との連携を進めていき、新たな仕組みづくりを進める。
特定健康診査受診率(人間ドック含む)		40.5%(H26)	43.8%	44.7%	44.8%	46.7%	60%	△	前年度まで未受診者勧奨の対象を40～50代に限定していたが、今年度は全年代に拡充したことや電話での受診勧奨を実施したこと、各自治会の掲示板上にポスターを掲示したことにより、受診率が2%上昇した。	毎年、受診勧奨の方法等を工夫して取り組むことで、目標値の60%には届かなかったものの、着実に受診率の向上を図ることができた。

3 文化と暮らしの創生「やわたチャレンジプロジェクト」

<基本目標の達成状況>

基本目標	計画当初値	H28実績	H29実績	H30実績	H31実績	目標値	達成状況	H31実績に対する評価	計画期間における総括
年間観光入込客数	183万人(H26)	206万人	260万人	218万人	229万人	225万人以上	◎	平成30年の地震、台風の災害による被害で、観光客が大幅に減少した分が回復したことや、駅名変更にもなうPRにより観光客数が増加したと考えられる。	地震、台風の災害による被害で、観光客が大幅に減少した年もあるが、石清水八幡宮の国宝指定や京阪電車駅名変更などによるPRを行ったため、観光客数が増加し、目標値を達成している。
年間観光消費額	4.53億円(H26)	6.31億円	6.38億円	6.26億円	6.49億円	5.3億円以上	◎	平成30年の地震、台風の災害による被害で、観光客の減少とともに消費額も減少していた分が回復した。観光客増加に伴い観光消費も拡大している。	観光客増加に伴い観光消費も拡大しており、目標値を達成している。
まちの魅力度(全国順位)	365位(H27)	437位	531位	381位	460位	200位以上	△	指数としては、平成30年度が6.5、平成31年度が6.4とほぼ同値であるが、他市町も同様に地方創生に取り組んでおり、本市の知名度など施策の周知に差が出ていると考える。	計画期間を通じて、指数は上昇してきているが、他市町も同様に取り組む中、全国順位が低下しているところを見ると、本市の知名度を上げていくことが重要であると考えられる。
転出入者数	▲134人(H26)	▲338人	▲159人	▲181人	算出中	0人以上			転出超過の状況を解消することを目指して取り組んできたが、平成30年度時点では未だに転出超過の状況にある。特に、20～30歳代の転出超過の状況が未だに多い現状を踏まえ、第2期総合戦略では、市内への働く場の創出を含む「まちづくり」に関する取組を追加する。

<各施策の具体的事業の進捗状況>

(1)「世界から関心を集める観光都市・やわた」へのチャレンジ

(KPIの達成状況)

KPI	計画当初値	H28実績	H29実績	H30実績	H31実績	目標値	達成状況	H31実績に対する評価	計画期間における総括
観光客の満足度	(未設定)						—	—	—
観光意欲度(全国順位)	396位	426位	328位	375位	283位	200位以上	○	「お茶の京都」の取組などから、指数、全国順位ともに上昇している。目標値達成に向けては、さらなる取組が必要と考える。	計画期間を通じて、指数、全国順位ともに上昇しており、この間の「お茶の京都」をはじめとする観光施策の効果がでてきているが、目標値の達成に向けては、本市のさらなる知名度向上が必要であると考えられる。

(2)「日本一魅力的なスローライフタウン」へのチャレンジ

(KPIの達成状況)

KPI	計画当初値	H28実績	H29実績	H30実績	H31実績	目標値	達成状況	H31実績に対する評価	計画期間における総括
市民の幸福度	(未設定)						—	—	—
居留意欲度(全国順位)	233位	321位	275位	259位	274位	150位以上	△	指数としては、平成30年度が5.3、平成31年度が5.6とほぼ同値であるが、他市町も同様に地方創生に取り組んでおり、本市の知名度など施策の周知に差が出ていると考える。	計画期間を通じて、指数は上昇してきているが、他市町も同様に取り組む中、全国順位が低下しているところを見ると、本市の知名度を上げていくことが重要であると考える。

(3)やわたEDISONチャレンジ！

(KPIの達成状況)

KPI	計画当初値	H28実績	H29実績	H30実績	H31実績	目標値	達成状況	H31実績に対する評価	計画期間における総括
創業者数	—	2人	11人	5人	算出中	8人			年度によるバラツキがあるものの、一定の創業者が輩出できており、さらに多くの方に創業の機会が創出できるよう、継続して取り組む。
創業支援対象者数	—	13人	16人	19人	算出中	24人			目標値には至っていないが、年々増加傾向にあるなど、制度の周知が図られてきていると考えており、さらに多くの方に創業の機会が創出できるよう、継続して取り組む。